

#せかいメンタル映画

世界メンタルヘルスデー映画上映会プロジェクト2026

入場無料

上映日

9

月

17

日

(木)

人は、
つながりで生かされる



会場：医療法人 川崎病院 西館5階第1会議室

開演：13時～ 映画113分
感想のシェア30分

申込：右のQRコードから → → → →

問合せ：078-511-3131 (屋敷)

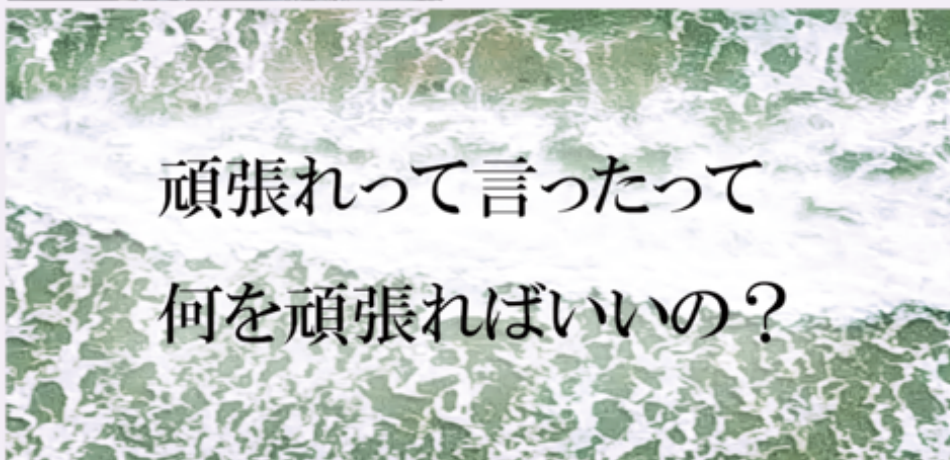
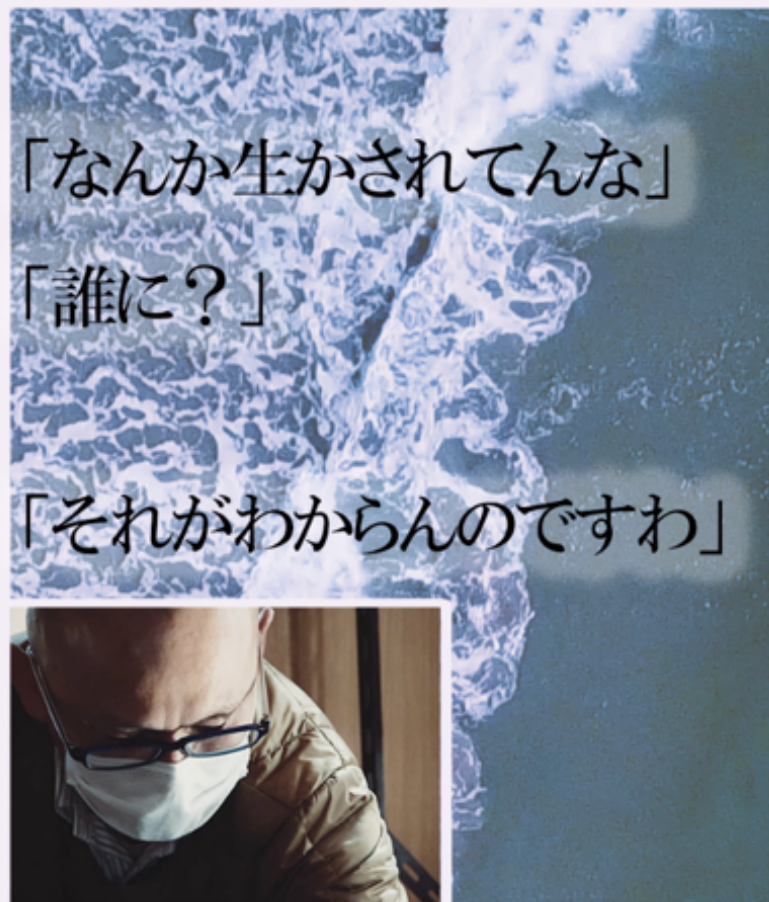


※ 直接来場も可能ですが、お申し込みがない場合は人数の関係でお断りする場合があります。

主催：医療法人川崎病院 認知症ケア・せん妄対策委員会・災害対策委員会

共催：TOMY'S ACTION CLUB 世界メンタルヘルスデー映画上映会プロジェクト





「人間もつと泣かなきゃだめだと思おう」

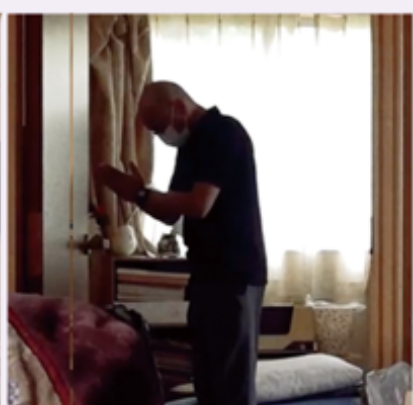
震災と原発事故から13年。福島では、時間を経てから発症する遅発性PTSDなど、こころの病が多発していた。若者の自殺率や児童虐待も増加。メンタルクリニックの院長、蟻塚亮二医師は連日、多くの患者たちと向き合い、その声に耳を傾ける。連携するNPOこころのケアセンターの米倉一磨さんも、こころの不調を訴える利用者たちの自宅訪問を重ねるなど日々、奔走していた。

津波で夫が行方不明のままの女性、原発事故で避難中に息子を自死で失い自殺未遂を繰り返す男性、避難生活が長引く中、妻が認知症になった夫婦など、患者や利用者たちのおかれた状況には震災と原発事故の影響が色濃くにじむ。

かつて沖縄で沖縄戦の遅発性PTSDを診ていた蟻塚医師は、福島でも今後、同じケースが増えていくのではと考えていた。

ある日、枕元に行方不明の夫が現れたと話す女性。「生きていていいんだ」という希望を持った時に人は泣ける」と蟻塚さんは話す。米倉さんは、息子を失った男性にジーンズカンを一緒に焼くことを提案。やがてそれぞれの人々に小さな変化が訪れていく。

喪失感や絶望に打ちのめされながらも日々を生きようとする人々と、それを支える医療従事者たちのドキュメンタリー。



せかメン映画
公式サイト
最新情報は
こちら



世界メンタルヘルスデー
ハッシュタグ: #せかメン



あなたの応援でこの活動は
全国に広がります。
クラウドファンディングは
こちらのQRコードから。

